

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ05-07-2/5)

目 的

西アジア諸国、とくに紛争後にあるアフガニスタンやイラクの文化遺産の調査研究を行うとともに、文化遺産の保存・修復を支援し、関係する技術の移転を図り、当該国における専門家育成を行う。また、あわせて周辺地域の文化財調査研究を実施し、西アジア諸国等における文化財の保存協力事業に役立てる。

成 果

1. アフガニスタン (バーミヤーン)

1-1 第8次ミッション(2007年6月9日～7月15日)をバーミヤーンに派遣し、バーミヤーン遺跡の保存修復事業を実施するとともに、アフガニスタン人専門家の人材育成を行った。なお、2007(平成19)年秋に第9次ミッションを派遣する予定であったが、アフガニスタンの治安の悪化により、派遣を中止した。

(1) アフガニスタン専門家研修事業

第8次ミッションで実施したバーミヤーン遺跡の考古学的調査、仏教壁画の保存の各プロジェクトにおいて、アフガニスタン人専門家と常に共同で作業を実施し、現場で人材育成、そして技術移転を行った。特に壁画の保存に関しては、現場においてワークショップを開催し、実践的な技術の移転を図った。

(2) バーミヤーン遺跡の考古学的調査

文化的及び考古学的地区と保護されるべき考古遺跡を特定し、地域開発による破壊からこれらの文化遺産を護るために、遺跡の分布調査及び試掘調査を実施した。第8次ミッションで試掘調査を実施したのは、ガリーブ・アーバード地区及びガーズィー・ダーウーティー地区の4つの調査区である。西大仏の南西にあたる調査区では仏教時代にさかのぼる可能性がある遺構を検出した。この遺構は『大唐西域記』に記された「王城」に関連するものである可能性がある。また、カクラク谷の中上流で分布調査を実施した。

(3) バーミヤーン地域の古環境の復元のための調査

バーミヤーン地域の古環境を復元するために、金原正明・奈良大学教授と協力して、土壌に含まれる花粉資料の採取を行った。

(4) 外部機関・団体との共同研究

バーミヤーン遺跡保存事業を円滑かつ効率的に実施するために下記の3機関との共同研究を実施した。

(4-1) 金沢大学との共同研究：バーミヤーン遺跡出土陶器の研究

試掘調査で出土した土器・陶器の整理や調査研究を共同で実施し、特にイスラーム時代の陶磁器の様相を明らかにした。

(4-2) 株式会社パスコとの共同研究：バーミヤーン石窟遺構の現状記録調査のための研究

石窟の現状を把握し記録することを目的として、主要な石窟(計28窟)の測量と図化を行った。これまでの調査で、計68窟の測量を完了した。

(4-3) 応用地質株式会社との共同研究：バーミヤーン遺跡保存のための崖崩壊予測および地下探査に関する研究

石窟や大仏が掘り込まれている崖の劣化状況を把握し、その崩壊・劣化のメカニズムを解明すると共に、中長期的な保存計画を作成するための基礎データを収集することを目的としている。

(5) バーミヤーン仏教壁画の保存

第6・7次ミッションにおいて実施した作業を継続し、第8次ミッションでは、パイロット事業としてのI窟、N(a)窟における保存修復作業を実施した。

1-2 バーミヤーン仏教石窟出土の仏典の保存修復

住友財団から助成を受け、カーブル国立博物館から保存修復の専門家を当研究所に招聘し、平成15年度の

バーミヤーン遺跡保存修復事業の際に石窟から発見された仏典の保存修復を実施した。

1-3 「バーミヤーン遺跡保存に関する第6回専門家作業グループ国際会議及び国際シンポジウム」開催及び参加

2008（平成20）年1月20日から22日にかけて、ユネスコと共催で東京文化財研究所において、「バーミヤーン遺跡保存に関する第6回専門家作業グループ国際会議」を開催し、バーミヤーン遺跡保存に関して情報収集をするとともに、今後の方針について各国の専門家（ドイツ、イタリア）と意見交換を行った。また、同会議にあわせて、1月22日に国際シンポジウム「バーミヤーン遺跡保存の現在」を開催し、保存活動やその成果について広く情報の公開を図った。

1-4 『アフガニスタン文化遺産調査資料集』の出版

平成19年度は、アフガニスタン文化遺産調査資料集の概報第2巻『バーミヤーン遺跡保存事業概報—2006年度（第6・7次ミッション）—』及び同英語版『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2006 —6th and 7th Missions—』、概報第3巻『バーミヤーン仏教石窟調査概報—2006年度—』、別冊第2巻『アフガニスタン・カブール市南部の文化的記念物および考古遺跡の調査』及び同英語版『Documenting the Cultural Heritage of Kabul, Survey Project in the Kabul Region Afghanistan funded by UNESCO in 2006』、別冊第3巻『バーミヤーン遺跡保存のための環境調査報告—2005～2006年—』を出版した。

1-5 バーミヤーン仏教壁画の年代測定

アフガニスタン情報文化省の協力の下、名古屋大学年代測定総合研究センターと共同で、仏教石窟内に残された仏教壁画の下塗りに含まれている藁スサを用いて放射性炭素年代測定法による年代測定を、平成16年度から継続して実施している。

2. イラク

イラク戦争及びその後の混乱のさなかに、イラクのバグダード国立博物館の収蔵品の多くは破壊、あるいは略奪されてしまった。また、引き続き政治的な混乱のために、こうした文化財を保護する専門家のみならず、文化財の保存・修復に関する知識や経験も失われつつあることから、本プロジェクトでは、イラク人専門家の人材を育成し、イラク人自身による文化財復興を支援することを目的としている。

(1) イラク文化財専門家研修事業

バグダード国立博物館等から専門家4名を日本に招聘し、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、静岡県埋蔵文化財調査研究所で、機器の取り扱い、木製品の保存修復の理論と実践に関する研修を実施した。なお、本事業は、ユネスコ日本信託基金による人材育成プロジェクトとタイアップして実施されている。

3. 西アジア周辺諸国における文化遺産保護に関する調査・研究等

(1) タジキスタン：タジキスタン共和国科学アカデミーの歴史・考古・民俗学研究所と文化遺産の保護に関する包括的な合意書及び国立古物博物館所蔵の壁画の保存修復協力に関する合意書を締結した（2008年3月10日）。

(2) インド：インドのアジャンター石窟の壁画の保存修復に関する共同事業の実施のために、ミッション（2007年12月2日～12月6日）を派遣し、共同事業の合意書締結に向けての意見交換を行った。

研究組織

○清水真一、稲葉信子、山内和也、朽津信明、岩出まゆ、宇野朋子、谷口陽子、有村誠、影山悦子（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、岩井俊平、西山伸一、（以上、客員研究員）、岡村道雄、井上和人、窪寺茂、森本晋、石村智、脇谷草一郎（以上、奈良文化財研究所）、中村俊夫（名古屋大学）、金原正明（奈良大学）、佐々木達生、佐々木花江（以上、金沢大学）、野上建紀（有田町歴史民俗資料館）、木口裕史、中野広行（以上、(株)パスコ）、島馨、馬貴臣（以上、応用地質株式会社）